

聖書:ルカの福音書8章22~39節

説教:神があなたにしてくださったことを

はじめに

私たちはイエス・キリストに直接お目にかかることはできず、聖書を通してイエスのことを知っていきます。それに比べて、弟子たちはイエスのそばにずっといたのですから、さぞかしこの方が分かっただのだろうと予想する。ところが今日の箇所では、彼らは、「いったいこの方はどういう方なのだろうか」と言って、理解できないでいる。そして「信仰はどこにあるのですか」とさえ言われる。弟子たちでさえこうなのですから、私たちはいっそう信仰がないとがっかりするかもしれません。いつも言いますが、がっかりする必要はありません。なぜか。今日のところからともに考えてまいります。

### 1 弟子たち

#### 1) イエスに訴える「私たちは死にそうです」

今日の箇所は大きく分けて、湖の嵐の場面と、悪霊に取りつかれた男の話、この二つの出来事から構成されています。

何年か前にイスラエルに行かせていただいたとき、ガリラヤ湖で実際に使っていた二千年前の船を博物館で見ることができました。長さはこの教会の講壇から受け付けの机くらいまであって、意外に大きく感じました。弟子たちはもと漁師ですから、湖の気象条件については自分の手のひらのように知ってはいはずです。それがいきなり大風が吹いて船が沈みかけたのですから、あわててしまいます。ところがイエスはそんな大騒ぎをよそにぐーぐー眠っておられる。いらいらした弟子たちはイエスのところに来てたたき起こす。「先生、先生、私たちは死んでしまいます。」

#### 2) 「信仰はどこにあるのか」

イエスが風と荒波を叱りつけ、風が止んで湖が静まると、イエスは弟子たちに「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」と問いかけます。信仰さえあればこのような嵐に遭っても揺るぐことはないはずなのに、こんなにあわてるとは情けないと叱られた。そんな印象を持つでしょう。この問いかけの意味についてはまたあとで触れることにします。

#### 3) 恐怖：風や湖が従う

弟子たちの反応はこうでした。25節後半。「弟子たちは驚き恐れて互いに言った。『お命じになると、風や水までが従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろうか。』」先ほどまでは船が沈んで死んでしまうと恐れていましたが、いまは信仰のことなどどこかに吹っ飛んで、イエスがことごとく一つで嵐を静めたことに驚き恐れてしまいます。

### 2 悪霊につかれていた人

#### 1) イエスを迎えた「私を苦しめないでください」

26節から始まる後半は、ガリラヤ湖の東側にあるゲラサ人の地が舞台が移り、ここでは豚を飼っています。律法によれば、蹄が分かれている豚を食べることは禁止されていたので、異邦人の地であることが分かります。

イエスが陸に上がって最初に出迎えたのは、悪霊につかれて墓場に住む裸の男でした。イエスが汚れた霊に向かって、「この人から出て行け」と命じたところ、この男はこう叫びます。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係がありますか。お願いします。私を苦しめないでください。」このあと、イエスと悪霊の間にいくつかのやりとりがあってから、悪霊はたくさんの豚に乗り移り、その豚が一斉に湖をめがけて走り始めて、崖から落ちて死んでしまい、男の方は正気に返り、服を着て座る。

#### 2) 恐怖：悪霊が従う

この人はそれまで、鎖や足かせを壊しては逃げ出し、大声を出して暴れ回る、そんな状態がずっと続いていました。村の人たちも扱いには困っていたはずで、それがいま一挙に悩みが解決したのですから喜ぶべきでしょう。ところが、人々は底知れぬ恐怖に襲われ、「自分たちのところから出て行ってほしい」と言ってイエスを追い返してしまおう。なぜ怖くなったのか。イエスが悪霊に向かって、「この人から出て行って、あの豚に移りれ」と命令したら、そのとおりになった。悪霊でさえ従わせることのできる、このお方はいったい何者なのか。そういう恐怖です。弟子たちが湖で感じた恐怖とまったく同じです。

### 3 いと高き神の子イエス

#### 1) 信仰は重荷なのか

こうして見てくると、前半の湖の嵐と後半の悪霊につかれた人の話は、いっけん別々の話しのようでありながら、実はつながっているのではないかとぼんやりと気がつく。でもどこがどうつながっているのか、まだはっきりしません。

そこで、誰もが感じる単純な疑問から考えてみましょう。なにかというと、「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」というイエスのことばです。弟子たちに信仰がなかったのでイエスは叱ったのだ。そんな意味だと思っていました。でも、すっきりしません。それではあまりにも弟子たちがかわいそうではないですか。弟子たちにはガリラヤ湖は自分の庭のようなものだったのです。そんなところで船が沈みそうになって死にかける。思いもかけなかったことが起きたら誰だってあわてるのではないですか。

私もこのあいだ、高速道路で百キロを出して走っているときに突然タイヤがロックして、急停車してしまったときは、大変あわてました。信仰をもって対処しなければと頭のどこかで思っている、そんな余裕はありません。カメラで撮っていたら、右往左往する私の姿が映ってはいはずです。ですから、「先生。私たちは死んでしまいます」と言った弟子たちの気持ちはよく分かる。それなのに、「信仰はどこにあるのですか」と責められなければならないとしたら、クリスチャンになるには大変な覚悟が必要です。私にはとてもできそうもありません。

イエスはこんな大変な重荷を背負わせるために私たちを救ったのでしょうか。違います。むしろ、「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです」（マタイ11章30節）と言われました。そうすると、私たちはなにか思い違いをしているということになる。イエスは弟子たちを叱ったのではない、と考えてみたらどうなるか。

## 2) 二つの出来事に共通すること

そこでまず、前半の湖の嵐の場面と後半の悪霊につかれた男、この二つの話に共通しているのは何かを考えてみます。もう一度おさらいをします。弟子たちはイエスにこう言いました。「先生、先生、私たちは死んでしまいます。」それでイエスが起き上がり、嵐と荒波を叱りつけたところ、嵐は止んで湖は凪になり、これ見た弟子たちは驚き恐れられた。

イエスが汚れた霊に、この人から出て行くようにと命じたところ、悪霊につかれていた人はこう言う。「お願いです。私を苦しめないでくださ

い。」そうしたら汚れた霊は出て行った。それを見ていた人たちは、非常な恐れに取りつかれてしまった。

いずれも誰かがイエスに願い、イエスはその願いを聞き届けてくださった。聞き届けてくださったのはよいけれど、あまりにも不思議なことが起きたので、頭が追いつかずに恐怖心が先立ってしまった。そういう共通点がある。

## 3) 信仰はどこにあったのか

イエスは弟子たちに問いかけました。「あなたがたの信仰はどこにあるのですか。」ひねくれた考え方もかもしれませんが、もしも弟子たちにまったく信仰がなかったのならどうなっていたと思いますか。本当に信仰がなかったなら、嵐は吹き荒れたままで船は沈んでしまったのではないですか。しかし弟子たちは救われました。ということは彼らに信仰はあったということになる。ただ弟子たちが気がついていないだけ。いったいどこにあったのか。弟子たちがしたことと言えばこれだけです。「先生、先生、私たちは死んでしまいます。」こんな嵐のとき寝ているとはどういうことか。そもそも船を出せと言ったのは先生ではないか。それなのにこんな目に遭わなければならない。全部あなたのせいだ。そんな怒りでイエスをたたき起こした。私たちの目には、とても信仰からやったこととは見えません。しかしイエスの目から見ると、これが信仰だった。なぜなら、いと高き方神の子イエスに向かって、自分の本心をおつけたからです。「私たちは死んでしまいます。」

私たちはあるとき、突然思いもしなかった嵐に遭うことがあります。このままでは船が沈んでしまう。一生懸命水をかき出すけれど、間に合わない。真っ暗闇の中でどこに助けがあるのか。だれもいないと思っていたら、同じ船にイエスが乗っておられる。たたき起こされるのをイエスは待っておられる、と言っていいかもしれない。「わたしにあなたの願いをおつけなさい。怒りでも何でもよい。それがあなたの信仰なのだから。」そういうことではないか。

では、悪霊につかれた人はどうか。イエスは本心をおつけるのを待っておられるといいましたが、この人は、悪霊の支配下にあので自分の本心を言えるような状態ではありません。「お願いです。私を苦しめないでください」と叫んだのは悪霊です。イエスに自分の願いを言えないのなら、救われるチャンスはない。神は何もできないのでしょうか。いいえ、イエスは悪霊に邪魔されるような

方ではありません。悪霊のことばを逆手にとって、人を救うために積極的に用いていきます。

悪霊はこう言いました。「お願いします。私を苦しめないでください。」イエスはこれを悪霊のことばではなくこの人の願い、この男の人の信仰のことばとして受けとめます。あなたが苦しみから解放されるように、汚れた霊が出て行くように命じた。この人にも信仰があったのです。

#### 4) イエスがしてくださったこと

その結果何が起こったか。39節。「『あなたの家に帰って、神があなたにしてくださったことをすべて、話して聞かせなさい。』それで彼は立ち去って、イエスが自分にしてくださったことをすべて、町中に言い広めた。」

イエスはこう言っていることに注意してください。「神があなたにしてくださったことを。」ところがこの人はどうしたか。「イエスが自分にしてくださったことを。」神と言っていたところが、イエスがと置き換わっています。この人にしてみれば当然のことでしょう。イエスが私にしてくださったことだから。イエスが神の子であるのかどうか、そこまでわかっていたのかどうかはわかりません。でも結果から見ると、この人はイエスが神の子であることを証している。

あなたの信仰はどこにあるのか。あわてふためく弟子たちに信仰はなかったかに見えました。悪霊につかれた男は、信仰のことばを語ることさえできない状態でした。しかしイエスは私たちにあらゆるチャンスを与え、あらゆる材料を捜し出して、大丈夫、ここにあなたの信仰があるからと言って、私たちから信仰を引きだしてくださる。イエスが私たちにして下さっていたこととはそのようなことだったのです。その方とともにこの一週間歩んでまいります。